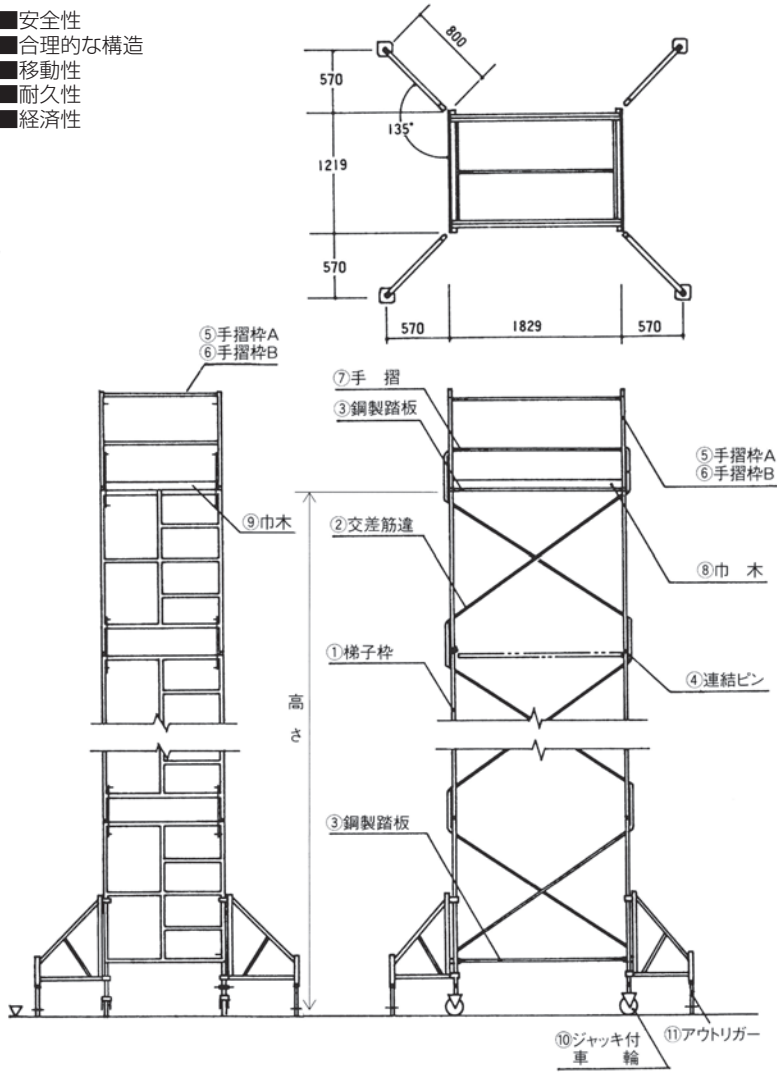
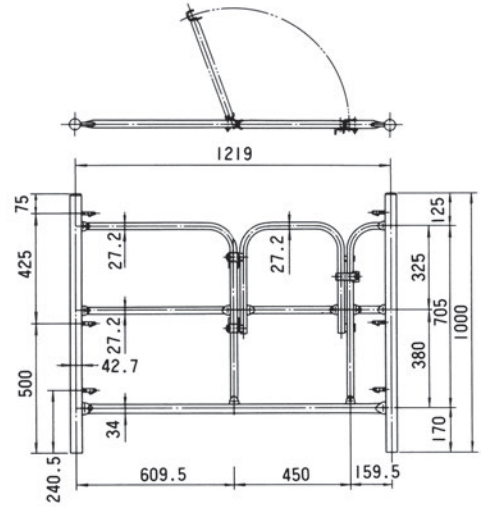


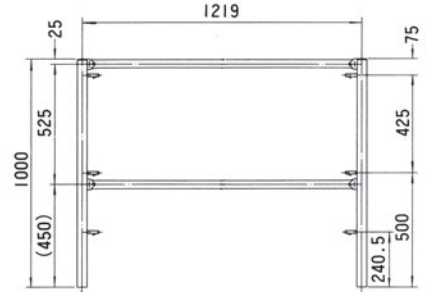
- 安全性
- 合理的な構造
- 移動性
- 耐久性
- 経済性



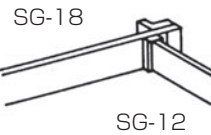
手摺棒A (扉付) N-4010A



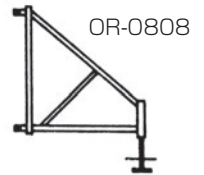
手摺棒B N-4010B



巾木



アウトリガー



■部材構成及び使用条件

型 式				SRT-1	SRT-2	ORT-3	ORT-4
段 数(段)				1段	2段	3段	4段
高 さ(m)				1.93 ~ 2.05	3.66 ~ 3.77	5.38 ~ 5.50	7.10 ~ 7.22
部 材 表				部 材 数 量			
No	品 名	型 式	単 重kg				
①	梯 子 枠	N-4055L	20.7	2	4	6	8
②	交 差 筋 違	N-14	4.6	2	4	6	8
③	鋼 製 踏 板	SKN-6	15.3	4	5	6	8
④	連 結 ピ ン	N-20R	0.6	4	8	12	16
⑤	手 摺 棒 A	N-4010A	13.5	1	1	1	1
⑥	手 摺 棒 B	N-4010B	9.5	1	1	1	1
⑦	手 摺	N-31	2.5	4	4	4	4
⑧	巾 木	SG-18	4.0	2	2	2	2
⑨	巾 木	SG-12	2.0	2	2	2	2
⑩	ジャッキ付車輪	N-3601J	5.7	4	4	4	4
⑪	アウトリガー	OR-0808	14.0	-	-	4	4
組 立 重 量 (kg)				182.0	222.3	374.6	458.2

ローリング・タワー

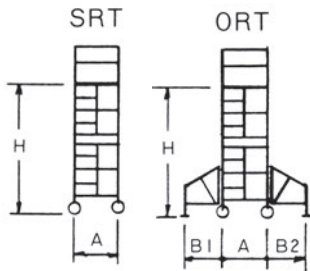
■ローリング・タワー使用上の注意

1. ローリング・タワー組立高さの基準

作業床までの高さは $H_m \leq 7.7L - 5$ とします。

ただしSRT型の場合は $L = A$ とし、

ORT型は $L = A + \frac{(B1+B2)}{2}$ とします。



2. 積載荷重の基準

(1)ローリング・タワーの積載荷重 W_{kg} は作業床面積 $A \geq 2m^2$ のときは $W \leq 2450N$ とし、 $A < 2m^2$ のときは $W \leq 490 + 980A$ とします。

(2)車輪の許容荷重は150φが1666N、200φで2156Nです。

3. 組立、使用上の注意

(1)ジャッキによる高さの調節は部材表の高さより、ある程度高くすることはできませんが、安全のため差込長は足場の脚柱に200mm以上確保して下さい。

(2)ORT型の場合、アウトリガーの張り出し角度は枠面に対し 135° （延長線に対し 45° ）でセットすることを目安とします。

(3)部材表の踏板は作業床として最上部に2枚の他、水平構として最下段に2枚と4枚以上の場合、中間部に2枚入れます。その他足場の組立、解体用として全段に1枚ずつセットした数にしてあります。

(4)車輪は150φ単体とジャッキ兼用（ジャッキ付車輪）の2種があります。

(5)組立、使用にあたっては「移動式足場の安全技術基準」に従って行って下さい。（以下抜粋）

①作業床、枠組構造部、脚輪、手すり等の接続は使用中容易に離脱しないよう、確実に結合すること。

②移動は作業者が降りたのちでなければ行ってはならないものとする。

③転倒のおそれがある場合は脚輪間の主軸間隔により定められた高さ以下に組替えること。また壁つなぎ、控等を設けること。

④移動式足場は無理のない姿勢で作業を行うため、作業箇所に近いところに定置すること。

⑤脚輪のブレーキは、移動中を除き、常に作動させ、その利き具合を確認しておくこと。

⑥凹凸または傾斜が著しいところでは、ジャッキの使用等により作業床の水平を保持するものとする。

⑦最大積載荷重をこえた荷重をのせてはならない。ま

た材料等は、転倒を防ぐため、偏芯しないようにのせるものとする。

⑧移動式足場の上では、はしご、脚立等を使用しないものとする。

⑨外部空間を昇降路とする構造の移動式足場にあつては、転倒防止のため、同一面より同時に2名以上のものが昇降しないものとする。

■主枠部材

梯子枠 N-4055L 20.7kg

